



TITLE:

京大広報 No. 38

AUTHOR(S):

京都大学広報委員会

CITATION:

京都大学広報委員会. 京大広報 No. 38. 京大広報 1970, 38: 146-147

ISSUE DATE:

1970-07-03

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/209657>

RIGHT:

京大広報

No. 38

京都大学広報委員会

6月25日の掲示について

6月25日、総長は次の掲示を出して一部学生の行動について警告した。

(掲示)

大学においては理性が尊重されるべきであり、腕力に訴えて自己の立場を主張し、学園生活の自由をおびやかすが如き行為の許されないことはいうまでもない。

このことは昨年以来度々告示等で広く学内の諸君に訴えてきたところであるが、去る6月17日午前、一部の学生諸君が建築学科の建物内において本学教官を負傷させるということがあった。最近その他にも行き過ぎた行為が見られるのは、甚だ遺憾である。

かかる行為が今後くりかえされることのないようここにあらためて強く警告する。

昭和45年6月25日

京都大学総長 前田敏男

月曜会メモ

第63回(6.22) 司会 高橋幹二会員

各部局の状況報告の後、予定議題である過去一年間に農学部で行なわれた改革について、農学部会員より次のような報告を受けた。

1. 制度改革についての取り組み方

(1) 44年2月、制度改革準備委員会が教官三層(教授層、助教授講師層、助手層)によりスタートしたが、性格があいまいであるとの批判があり、事実上解散した。

(2) 44年6月、改革に関して、教授会内に次の委員会が設置された。第1委員会(長期ビジョン)、第2委員会(カリキュラム)、第3委員会(建築)、第4委員会(教授会公開、学部長選挙)。

また44年10月、研究科会議内に、A委員会(研究科のあり方)、B委員会(カリキュラム)、C委員会(研究科会議のあり方)が設けられた。

(3) 委員会の報告書(討議資料)が出されているが、教授会での討議が未了であり、教授会として二、三の提案も行なったが、他階層(教授以外の構成)の意見をフィードバックする方法が未解決である。

2. 実施された改革

(1) カリキュラム関係の規定の改革

転学部、転学科を可能にした。

教養課程での留年制を暫定的に中止した。

必修制度を廃止した。

特別科目を設置した。

授業時間帯を90分とした。

卒業論文の単位認定に幅をもたせた。

(2) 教授会決定事項の公表

「農学部お知らせ」で速報し、議事録を求めに応じて公開することにした。

以上の報告に対し、種々質問、討論があったが、とくに教授会公開について活発な討論が行なわれた。公開すべき論拠として「全構成員を拘束する決定の場は当然公開されねばならない。」「民主主義の原則からいって、権力を持つものは、当然何らかの方法でチェックされるべきである。」、公開すべきでない論拠として「団交権と公

開要求権は論理的に矛盾する。』、また「現実に関開してうまく運営できればよく、悪ければ考え直せばよい。」などの議論があったが、これについては、公開を行なっている他部局の報告を受ける

機会も今後あると思われるので、引き続き討論の対象とすることを了承した。

次回は薬学部から報告を受ける予定である。

(高橋幹二, 星野 力会員)